

きずな



北九州市立折尾西小学校
学校だより 学力特集号
平成30年10月26日(金)
校長 成重純一

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

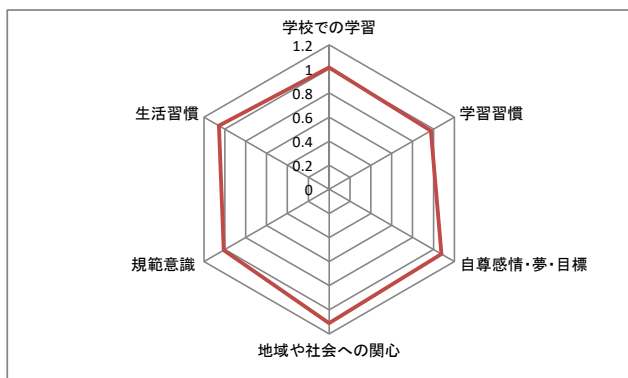
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	どの領域においても全国平均と同等かそれ以上の成績である。特に「書くこと」領域について、構成の工夫の説明として適切なものを選ぶことができている児童が多いことから、文章を書く力が身に付いていることが分かる。	上回っている
国語B	ほぼ全ての問題で全国平均を上回っている。特に「書くこと」領域の問題では、記述によって自分の考えを書き表すことができている。	上回っている
算数A	グラフや割合など、「数量関係」の領域で全国平均を大きく上回っている一方、式から文章題を選んだり、数の大きさ比で十の位に適切な数字を入れたりする「数と計算」領域の問題に課題がある。	上回っている
算数B	どの領域の問題においても、全国平均と同等かそれ以上の成績である。「算数A」で課題であった「数と計算」領域の問題でも、考えを記述することができており、正答率が高い。	上回っている
理科	全ての領域で平均的に得点できている。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ 学習習慣…ほとんどの児童が家庭で学校の宿題をしており、自分で計画を立てて勉強している児童も全国平均を上回っているが、1時間以上の家庭学習をする児童は全国平均を大きく下回っている。
○ 学校での学習…友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる児童が多い。
○ 心の育ち…生活習慣、規範意識、地域や社会への関心、自尊感情・夢・目標をもつことなど、心の育ちに関する項目では全て全国平均を上回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

自分の考えを適切に書き表すことがよくできていた。今後も、授業の中で、話したり書いたりして説明する場面を設ける。また、漢字の書き取りや計算問題など、基礎・基本の学力の定着のために、補充問題を解いたり、繰り返し練習したりする時間を設けるとともに、宿題や自主学習等、苦手なことを克服するための家庭学習の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

児童の生活習慣や地域社会に対する関心や自尊感情が高く、高い意欲をもって学習に臨むことができている。さらに、自分で計画を立てて家庭学習ができるように、自学自習ノートの掲示を充実したり、授業の中で予習・復習したことが生かせる場を設定したりする。